

高校生から60代までの約3,000名を対象
「第3回 現代人の語彙に関する調査」結果速報
～厳選440語の語彙の認知と、「語彙力」に関する推察～

「インスタ映え」「SNS」が上位に！世代を超えてSNSの言葉が浸透 相手に伝える意識をもって「書く」ことが語彙力を磨くか

情報を正しく理解し、自分の考えをわかりやすく伝えるコミュニケーション力の必要性がますます高まり、そのベースとなる語彙力の重要性が増しています。

そこで『語彙・読解力検定*』を主催する株式会社ベネッセコーポレーション（株式会社ベネッセホールディングスの子会社。本社：岡山市）は、グループ内シンクタンク「ベネッセ教育総合研究所」の協力のもと、2018年7月に、全国の高校生から社会人3,028名を対象に「第3回 現代人の語彙に関する調査」（略称：語彙調査）を実施しました。

本調査は、『語彙・読解力検定』の「辞書語彙*」「新聞語彙*」の2領域から厳選した440語の「熟知度*」を調べ、現代を生きる人々の言語活動の実態、およびその年代・生活・行動などによる「語彙力*」の違いを明らかにすることで、現代人に必要な言葉の力を高める方法を検討することを目的としています。

(*は、5ページの「*補足」をご参照ください。)

【主な調査結果】

1. 【語彙と世代】全世代で「インスタ映え」「SNS」の熟知度が高い。語彙の傾向には世代差も。

◆全440語の熟知度（その言葉を知っている人の割合）を見たところ、**全体で最も熟知度が高かった語は「インスタ映え」、次いで「SNS」となった。**「辞書語彙」にしぼると、高校生・大学生・社会人（20代・30代）で「インスタ映え」が1位、社会人（40～60代）でも2位となっている《表1》。社会人（40～60代）で実際にインスタグラムを使っている人は20%に満たないが、インスタグラムを使っていない層でも「インスタ映え」という言葉が広く認知されている状況がうかがえる。「インスタ映えスポット」「インスタ映えスイーツ」といった表現がテレビやメディアで取り上げられることも多くなり、言葉の認知度が上がるとともに、SNS非利用層も一般的な場面で使う語として定着しはじめているとも考えられる。

熟知度	1位	2位	3位
全体	インスタ映え (97.4)	SNS (96.0)	糖尿病 (95.5)

《表1》世代別「知っている」割合が高い語（「辞書語彙」上位10語）

順位	高校生		大学生		社会人（20代・30代）		社会人（40～60代）	
	語彙	割合	語彙	割合	語彙	割合	語彙	割合
1	インスタ映え	96.5	インスタ映え	99.0	インスタ映え	95.2	意固地（いこじ）	99.0
2	デイスる	93.3	デイスる	97.1	茨（いばら）の道	93.3	インスタ映え	98.1
3	神〇〇（例：神アプリ）	92.8	ことごとく	96.0	あたかも	92.3	茨（いばら）の道	97.1
4	匹敵する	92.0	主観的	95.2	主観的	92.2	匹敵する	97.1
5	茨（いばら）の道	89.9	あたかも	94.6	故意	91.3	仲裁	97.1
6	仲裁	89.5	故意	94.2	終活	91.2	お茶をにごす	97.1
7	ことごとく	88.9	匹敵する	94.1	無謀	91.1	ことごとく	96.2
8	故意	88.5	ワンチャン	93.7	あざとい	90.4	あたかも	96.2
9	硬直	88.4	神〇〇（例：神アプリ）	93.7	匹敵する	89.4	おどける	96.2
10	敷居が高い	87.2	イミフ	93.7	硬直	89.4	故意	96.2

※数値は語彙の熟知度（%）。小数点以下2桁目を四捨五入して計算。 ※辞書語彙を抜粋した表。

◆世代ごとの熟知度の傾向

高校生や大学生の親世代にあたる社会人（40～60代）は、他の世代より「知っている」語が440語中298語と最も多い。漢語・和語等の語種や政治・経済等の分野の偏りもなく、すべての分野で他の世代を上回った。高校生・大学生が親世代よりも「知っている」語を見ると、辞書語彙では「リムる」「イミフ」など仲間内のSNSで使われる「新語」がほとんどである。一方、新聞語彙では「SDGs」「マイクロプラスチック」「#Me too」など新しい社会課題や概念に関する語が多く見られ、若い世代の時代への感度がうかがえる結果となった《表2-1》。

《表2-1》高校生が親世代よりも「知っている」割合が高い語（差が大きい順に15語ずつ）

順位	辞書語彙	高校生	親世代	差	順位	新聞語彙	高校生	親世代	差
1	リムる	60.5	10.6	49.9	1	ラブ	44.4	24.0	20.4
2	イミフ	77.2	33.7	43.6	2	3R	37.9	21.2	16.8
3	秒で	67.8	24.8	43.1	3	タイムライン	89.0	75.0	14.0
4	わず	63.5	22.1	41.4	4	コミケ	79.0	66.3	12.6
5	ふぁぼ	48.7	7.7	41.0	5	SDGs	16.4	7.7	8.7
6	りよ	81.5	41.3	40.1	6	グランピング	34.4	26.0	8.4
7	リップ	61.3	26.2	35.1	7	アクティブ・ラーニング	43.8	35.9	7.9
8	ガルチャ	46.7	12.4	34.4	8	PM2.5	95.9	89.3	6.6
9	まじ卍	85.1	51.5	33.6	9	メディアリテラシー	38.3	32.1	6.2
10	ワンチャン	79.1	47.1	31.9	10	マイクロプラスチック	44.1	38.5	5.6
11	とりま	64.1	33.7	30.4	11	ネグレクト	72.5	67.3	5.2
12	バ先	42.6	14.4	28.1	12	#Me too	51.3	47.1	4.2
13	bot	48.7	21.2	27.6	13	スマートスピーカー	69.6	66.0	3.6
14	なる早	63.4	35.9	27.5	14	WHO	85.2	82.7	2.5
15	デイスる	93.3	67.3	26.0	15	拡張現実 (AR)	31.3	28.8	2.4

《表2-2》親世代が高校生よりも「知っている」割合が高い語（差が大きい順に15語ずつ）

順位	辞書語彙	高校生	親世代	差	順位	新聞語彙	高校生	親世代	差
1	しんがり	28.5	76.7	48.2	1	春闘	38.2	90.4	52.2
2	約款	40.0	87.5	47.5	2	金属疲労	40.8	82.7	41.9
3	阿漕（あごぎ）	32.3	74.0	41.8	3	経団連	46.8	87.1	40.3
4	骨子	36.1	77.7	41.6	4	核の傘	29.6	69.5	39.9
5	イデオロギー	26.2	64.4	38.2	5	元本	51.9	91.3	39.5
6	胸算用	35.1	72.8	37.8	6	第3セクター	43.9	81.7	37.8
7	すげない	22.0	59.6	37.6	7	連結決算	28.9	66.0	37.2
8	逐次	31.2	67.6	36.5	8	白票	41.0	76.9	35.9
9	善処	42.4	78.8	36.4	9	全国人民代表大会	36.5	72.1	35.6
10	机上の空論	52.3	88.5	36.2	10	源泉徴収	56.0	91.3	35.3
11	佳境	41.2	77.1	35.9	11	インサイダー取引	54.3	89.5	35.3
12	すべからく	32.5	68.3	35.8	12	活版印刷	46.2	80.8	34.6
13	胸のすく	43.4	78.5	35.1	13	マネーロンダリング	42.3	75.7	33.5
14	慄然（ぶげん）	49.2	83.7	34.4	14	臨界	44.2	77.1	32.9
15	忌憚（きたん）	26.8	61.2	34.4	15	裁量労働制	37.1	69.9	32.8

※親世代＝社会人40～60代。 ※数値は語彙の熟知度（%）。小数点以下2桁目を四捨五入して計算。

◆「新語」の熟知度の変化

2016年度に実施した第1回語彙調査で、高校生のほうが親世代よりも知っていた語の上位語について、第3回調査までの親世代の熟知度の変化を見たところ、一部の語を除いて熟知度が上がっていた。「デイスる」「りよ」など、いずれもSNSで使われることが多い「新語」であり、若者を起点とした新しい言葉が、間をおいて上の世代にも広がっていると考えられる。

《表3》親世代の「新語」熟知度の変化

	親世代の熟知度			
	2016年	2017年	2018年	2018-2016の差
デイスる	44.3	65.1	67.3	23.0
イミフ	37.7	33.0	33.7	-4.1
りよ	23.6	19.8	41.3	17.8
ボチる	41.5	47.2	49.5	8.0
リムる	10.4	11.3	10.6	0.2
とりま	23.6	28.3	33.7	10.1
（予想の）斜め上	37.7	57.5	50.5	12.7

※親世代＝社会人40～60代。 ※数値は語彙の熟知度（%）。小数点以下2桁目を四捨五入して計算。

※第1回調査で高校生が親世代よりも知っていた語上位10語のうち、第2回調査・第3回調査でも対象とした7語で比較。

2. 【書く】ことと「語彙力」の関連性

◆語彙力が高い人は、「書く」場面で相手に伝えることを意識する傾向が強い

「話す」「聞く」「書く」の各場面で意識していることと「語彙力」との関連を見たところ《表4》、「語彙力」が高いグループのほうが、「書く」場面で「文章を書いたら、読み直し、読み手にとってわかりやすい内容に修正しようとする」「文章を書くときは、相手や場面に合わせて適切な言葉や表現を選ぶようにしている」などの項目に「あてはまる」と答えた割合が高かった。相手への伝え方を意識して文章を書く経験が、語彙力を伸ばすことにつながる可能性があると考えられる。

《表4》「話す」「聞く」「書く」ときの意識－「語彙力」が高い群・低い群での比較（高校生）

分類	高校生	「語彙力」高グループ	「語彙力」低グループ	差
話す姿勢	人と話をするとき、相手にわかりやすい言葉で話すようにしている。	77.8%	68.5%	9.3%
	人と話をするとき、相手や場面に合わせて話し方や使う言葉を変えている。	89.8%	80.1%	9.7%
	相手に自分の話が伝わっているか、気かけながら話している。	77.1%	62.2%	14.9%
聞く姿勢	話を聞くときは、相手の言葉をささげらないで聞くようにしている。	94.7%	85.7%	9.1%
	話を聞くときは、相手が話しやすいように、うなずいたりあいづちを打ったりしながら聞くようにしている。	94.4%	82.5%	11.8%
	話を聞いていて、聞き取れないことや意味がわからなことがあったら、聞き返して確認するようにしている。	79.9%	66.8%	13.1%
	話を聞くとき、相手の話の要点をつかむことを意識している。	78.9%	58.7%	20.1%
書く姿勢	（小論文やレポートなどの）文章を書く際には、短い字数で簡潔な表現にしようとしている。	84.5%	58.0%	26.5%
	文章を書くときに、同じ言葉の繰り返しにならないように、いろいろな表現を使おうとしている。	84.2%	52.8%	31.4%
	文章を書いたら、読み直し、読み手にとってわかりやすい内容に修正しようとする。	82.4%	52.1%	30.3%
	文章を書くときは、相手や場面に合わせて適切な言葉や表現を選ぶようにしている。	85.2%	62.9%	22.3%

- ※ 数値は当該設問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と答えた人の割合。
- ※ 「語彙力」高グループは「語彙力」が高い順に上位約30%、「語彙力」低グループは「語彙力」が低い順に下位約30%を抽出。
- ※ 数値は、小数点以下2桁目を四捨五入して計算。
- ※ この表では、高校生の数値のみを掲載。

◆学校で長い文章を書く機会が多い人ほど、「語彙力」が高い（高校生・大学生）。

高校生・大学生では、学校で作文や小論文、レポートなどの長い文章を書く機会が多い人ほど「語彙力」が高い傾向が見られ、手紙や日記など私的に長い文章を書く機会と比べても差が大きい《表5》。私的に文章を書く場合と比べ、学校で文章を書く場面では、よりフォーマルな文章が求められることが多く、相手や目的を意識して言葉を選んで書く必要があることが影響していると推察される。

《表5》学校で長い文章を書く機会・学校以外で長い文章を書く機会と「語彙力」

	高校生						大学生					
	学校で長い文章（作文、小論文、レポートなど）を書く。			学校以外で長い文章（手紙、日記、メール、ブログなど）を書く。			学校で長い文章（作文、小論文、レポートなど）を書く。			学校以外で長い文章（手紙、日記、メール、ブログなど）を書く。		
	する	しない	差	する	しない	差	する	しない	差	する	しない	差
人数	802	166		506	462		949	81		608	422	
語彙力 (%)	57.8	43.7	14.1	58.5	52.0	6.5	66.8	54.0	12.8	68.7	61.6	7.1

※数値は語彙の熟知度 (%)。小数点以下2桁目を四捨五入して計算。

◆学校での「書く」指導の内容によって「語彙力」に違いが見られる。

学校で「書くこと」に関してどのような指導を受けているかと「語彙力」との関連を見たところ、高校生・大学生とも、「学校に提出し、評価（添削）された文章が返ってきたら内容の見直しをする」「書いた文章をみんなの前で発表したり、クラスメイトと相互に評価しあったりする機会がある」など、特に文章を書いた後の指導について、「語彙力」が高いグループと低いグループの差が大きかった《表6》。高校生について、通学校のタイプ*で分けて見ても同様の結果が見られた。文章を書いたところで終わりとせず、他者からの評価を受けることや、評価を受けるだけでなく、自ら振り返って主体的に見直しをすることが重要であると考えられる。

《表6》学校での「書く」指導－「語彙力」が高い群・低い群での比較

問 学校の授業や宿題（課題）で、作文や小論文などの長い文章を書くとき、どのようなことをしますか。あてはまるものを選んでください。	高校生			大学生		
	語彙力 高	語彙力 低	差	語彙力 高	語彙力 低	差
人数	262	207		298	274	
文章を書く前に、先生から書く内容や書く構成についての指導がある。	77.1	70.5	6.6	63.1	66.8	-3.7
文章を書く前に、先生から、という観点で評価・採点するかあらかじめ説明がある。	60.7	61.4	-0.7	64.4	63.1	1.3
文章を書いたら、書いた文章を学校に提出する。	91.2	90.8	0.4	89.9	86.9	3.1
書いた文章を学校に提出したら、評価（・添削）して返してくれる。	81.7	72.0	9.7	50.0	45.3	4.7
学校に提出し、評価（添削）された文章が返ってきたら、内容の見直しをする。	65.6	46.9	18.8	51.7	43.8	7.9
書いた文章をみんなの前で発表したり、クラスメイトと相互に評価しあったりする機会がある。	55.7	41.1	14.7	53.0	39.1	14.0

※数値は当該設問に「よくある」「ときどきある」と答えた人の割合。

※「語彙力高」グループは「語彙力」が高い順に上位約30%、「語彙力低」グループは「語彙力」が低い順に下位約30%を抽出。

※数値は、小数点以下2桁目を四捨五入して計算。

★通学校のタイプは、現在通っている学校について「難関」「標準」「その他」から回答者に選択してもらった結果による。

3. 【「語彙力」と、目的や相手、場面に依って言い換える力の関連性】

言葉を、「目的や場面、相手に応じて適切な表現に言い換えられるか」を問うた設問の正答率（以下、「言い換える力」と「語彙力」との関連を見たところ、「語彙力」が高いグループのほうが「言い換える力」が高いことがわかった《表7》）。言葉のニュアンスや使用される場面の微妙な違いをふまえて言葉を選ぶためには、土台として語彙を幅広く身につけていることが重要であると考えられる。

《表7》「言い換える力」－「語彙力」が高い群・低い群での比較

	全体				高校生				大学生				社会人20・30代				社会人40～60代			
	全体	語彙力 高	語彙力 低	差分	全体	語彙力 高	語彙力 低	差分	全体	語彙力 高	語彙力 低	差分	全体	語彙力 高	語彙力 低	差分	全体	語彙力 高	語彙力 低	差分
人数	3028	915	906		968	284	286		1030	313	317		510	147	152		520	157	155	
言い換え問題正答率(%)	72.6	80.5	63.1	17.4	69.3	76.4	61.9	14.5	74.1	81.5	64.9	16.6	72.3	82.4	62.3	20.1	76.0	83.5	66.1	17.4

※数値は、言い換える力を問うた設問28問の平均正答率。小数点以下2桁目を四捨五入して計算。

※「語彙力高」グループは「語彙力」が高い順に上位約30%、「語彙力低」グループは「語彙力」が低い順に下位約30%を抽出。

※設問は下記のとおり。

設問文「下線部を、【 】で示した場面に合うように適切に言い換えた表現として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選んでください。」

出題例

「【メールの一部】11月の第1週の週末に文化祭をやりますので、ぜひ、いらっしゃってください。」

選択肢①開催します ②実践します ③実行します ④開演します

【調査結果からの考察】

語彙の熟知度には世代によって特徴があります。親世代である社会人は偏りなく幅広い分野の語彙力が高いのに対し、若い世代はいわゆる「新語」や新しい社会課題に関する語の熟知度が高く、社会人を上回るということがわかりました。一方で、第1回調査と今回の結果を比べると、SNS中心に使われる「新語」の親世代の熟知度が上がっており、若い世代を起点とした語彙が間をおいて上の世代にも広がっているといえそうです。今回、「インスタ映え」が最も熟知度が高かったことは象徴的です。

また、「話す」「聞く」「書く」というコミュニケーションの各場面で意識していることと「語彙力」との関連では、特に「書く」場面での意識のあり方と語彙力との関係が強いという傾向が見られました。協働して課題を解決する力の前提として、思いや考えを伝えあう力の重要性は今後ますます高まると考えられますが、コミュニケーションとは一方通行のものではなく、相手に伝わって初めて成立するものです。「相手に伝わるように」という意識をもってコミュニケーションに努めることが「語彙力」を高めることにもつながり、ひいては、これからの社会で生きる力につながっていくのではないのでしょうか。

今後、調査結果についての考察を深めていくとともに、『語彙・読解力検定』『Literas 論理言語力検定*』を通じて、広く語彙力を身につける大切さを伝えていきたいと考えています。

【調査概要】

名称	第3回 現代人の語彙に関する調査 (略称：語彙調査)		
調査テーマ	年代、生活、行動と語彙力の関連性を明らかにする調査		
調査方法	インターネット調査 (専用ページにて回答入力)	調査時期	2018年7月
調査対象	全 3,028名 高校生 (高校1年生～3年生) : 968名 大学生 (大学1年生～4年生) : 1,030名 社会人 (20・30代) : 510名、(40～60代) : 520名 ※男女比は均等人数 ※高校生・大学生は各学年均等、社会人は10代刻みで均等人数		
調査項目	◆語彙 440語の熟知度 辞書語彙：220語 新聞語彙：220語 合計：440語 ◆相手や目的・場面に合わせて適切に語を言い換える問題：28問 ◆属性に関する項目：「話す」「聞く」「書く」ときに意識していること・姿勢、言葉への関心、長い文章を書く頻度、学校での「書くこと」について指導を受けた経験 (高校生・大学生)、SNSの活用状況、読書の状況、読む本のジャンル など		
協力	猪原敬介 (くらしき作陽大学 講師)、木村治生 (ベネッセ教育総合研究所 主席研究員)		

*補足

- 『語彙・読解力検定』 (<http://www.goi-dokkai.jp/>) は、ベネッセコーポレーションと朝日新聞社の主催で、2011年の開始以来、累計約40万人が受検している検定です (2018年10月時点)。2019年度からは、ベネッセコーポレーション主催の『Literas 論理言語力検定』 (<https://literas.benesse.ne.jp/>) として、『語彙・読解力検定』の価値を引き継いでいきます。
- 調査対象語について
 - ・語の難度・分野・語種のバランスを考慮して、「辞書語彙」「新聞語彙」各220語ずつを選定。
 - ・「辞書語彙」「新聞語彙」は『語彙・読解力検定』の出題領域に合わせて分類した。
 辞書語彙：主に国語辞典に掲載されている、文章や会話を理解し、的確に表現するために必要な語彙。
 新聞語彙：新聞に掲載されることの多い、社会生活に必要な基礎知識や時事知識に関する語彙。
 ※辞書語彙の「新語」については、『語彙・読解力検定』の分類によらず、SNS・インターネットなどから近年使われるようになった新しい語や新しい用法を収集し、選定した。
- 調査方法について
 - 今回の調査では、「語彙力」「熟知度」を測るにあたり、2段階評定尺度法を用いた。
 - ・各語彙について、意味を「知っている」「知らない」の2段階評定尺度法で回答を得た。
 - ・一部の語について、正しい意味を選択肢5つから選ばせる多肢選択型設問も設け、2段階評定尺度法の精度を確認した。
- 調査結果の集計・分析について
 - 今回の調査では、回答結果をもとに、以下のように集計・分析を行った。
 - ①回答者の「語彙力」
 各回答者が、自身が回答した調査対象語のうち、「知っている」と答えた語の割合 (各回答者が「知っている」と答えた語の数/回答した語の数×100 (%))。例えば「高校生の語彙力」といった場合、高校生の回答者の「語彙力」の平均を指す。
 - ②語の「熟知度」
 調査対象の各語について、「知っている」と回答した回答者の割合。
 (各語彙について「知っている」と答えた人の数/回答者数×100 (%))

本リリースの内容につきましては、『Literas 論理言語力検定』公式サイト (<https://literas.benesse.ne.jp/>) に順次掲載予定です。併せてご覧ください。※第1回・第2回語彙調査のデータも同サイト内にあります。

<本件に関するお問合せ先>

株式会社ベネッセホールディングス 広報・IR部 齋藤・宮本・萩澤
 電話：042-357-3658 FAX：042-389-1757